

市内中小企業景況調査結果（令和2年4月～令和2年6月）

コロナウィルスの影響深刻化、来期も更なる悪化を懸念

下 関 商 工 会 議 所

本所では地域の景況・企業の動向を把握するため、四半期ごとに市内の中堅・中小企業50社を対象とした景況調査を実施しています。このたびは第3四半期（令和2年4月～6月）の調査結果を報告します。

● 調査時点

令和2年5月15日

● 調査対象時期

令和2年4月～6月期状況、令和2年7～9月期見通し

● 調査回答企業数

35社：建設業7社、製造業5社、卸売業7社、小売業7社、サービス業9社（回収率70%）

● D I（DIFFUSION INDEX 景況判断指数）

好転の回答割合から悪化の回答割合を差し引いた数値

【概 況】

市内中小企業の景況をみると、前期（令和2年1月～3月期：以下同じ）では業種によりバラツキがあり全体としては悪化傾向にあったが、今期（令和2年4月～6月期：以下同じ）では、経営上の問題点からも「コロナウィルス」の影響が現出してきており、全般的に悪化傾向を強めている。来期に向けても一層悪化するものとみている。

● 今期の状況（前年同期比）

全産業合計の業況D I（前年同期比）は、前期と比較して27.9ポイント低下し、D Iでは△65.7となりマイナス幅が拡大している。業種別にみると、製造業では変化ないものの、D Iでは△60.0とマイナス域で推移している。建設業では、14.3ポイントの低下となり、D Iでは△42.9とマイナス域が拡大している。卸売業では33.9ポイントと大幅に低下し、D Iでも△71.4まで悪化している。小売業も35.7ポイントと大幅に低下し、D Iでも△85.7と悪化超のまま推移している。サービス業では39.4ポイントの低下となり、D Iでも△66.7と大幅にマイナス幅が拡大している。

【売 上】

全産業で見ると前期と比較して 38.7 ポイントと大幅に低下しており、D I では△65.7 とマイナス幅が拡大している。

業種別にみると、建設業では 57.1 ポイント低下し、D I では△71.4 と大幅に悪化している。サービス業では 50.5 ポイント低下しており、D I では△77.8 まで悪化している。小売業では、4.7 ポイントの低下にとどまったものの、D I では△71.4 となっている。製造業では 40.0 ポイント低下し、D I では△60.0 まで悪化。卸売業では 30.4 ポイントの低下となり D I では△42.9 となっている。

〔採 算〕

全産業で見ると前期と比較して 25.1 ポイントの低下となり、D I では△62.9 とかなりの悪化となっている。

業種別にみると、製造業では変化なく、D I では△40.0 となっている。建設業では 28.5 ポイント低下し、D I では△57.1 と悪化している。卸売業では 19.6 ポイントの低下となり、D I では△57.1 まで悪化している。サービス業では 39.4 ポイント低下し、D I では△66.7 となっている。小売業では 48.2 ポイントと大幅に低下し、D I では△85.7 と大きく悪化している。

〔資金繰り〕

全産業で見ると前期と比較して、17.9 ポイントの低下となり、D I では△45.7 まで悪化しマイナス域が拡大している。

業種別にみると、製造業では 20.0 ポイント上昇し、D I では±0.0 まで戻している。建設業では 14.3 ポイント低下し、D I では△28.6 まで悪化している。卸売業では 28.6 ポイントの低下となり、D I では△42.9 となっている。サービス業では 39.4 ポイントと大幅に低下し、D I では△66.7 となっている。小売業では 4.7 ポイントと僅かな低下となっているが、D I では△71.4 と大幅な悪化超となっている。

●来期(令和2年7~9月期)の見通し(前年同期比)

全産業合計の業況D I は今期と比較して 11.4 ポイントと引き続き低下し、D I では△77.1 まで悪化するものとみている。

業種別にみると、サービス業では 11.1 ポイント上昇するものの、D I では△55.6 と悪化のまま推移するものとみている。小売業では変化ないものの、D I では△85.7 と大幅な悪化超のまま横ばいとみている。卸売業でも 14.3 ポイントの低下となり、D I では△85.7 と悪化超となっている。建設業では 28.5 ポイントの低下となり、D I では△71.4 まで悪化する見通し。製造業では 40.0 ポイント低下し、D I では△100.0 となり、すべての企業が悪化するものとみている。

〔売 上〕

全産業で見ると、14.3 ポイント低下し、D I では△80.0 までマイナス幅が拡大するものとみている。

業種別にみると、サービス業では 22.2 ポイント上昇するものの、D I では△55.6 にとどまるものとみている。建設業では 14.3 ポイント低下し、D I では△85.7 までマイナス幅が拡大する見込み。小売業でも同様に 14.3 ポイント低下し、D I では△85.7 となるものとみている。卸売業では 42.8 ポイントと大幅に低下し、D I でも△85.7 まで悪化するものとみている。製造業では 40.0 ポイント低下し、D I では△100.0 となるものとみている。

〔採 算〕

全産業で見ると、今期と比較して11.4ポイントの低下となり、D Iでは△74.3まで悪化するものとみている。

業種別にみると、サービス業では11.1ポイントの上昇となるものの、D Iでは△55.6と悪化超のまま推移するものとみている。小売業では変化ないものの、D Iでは△85.7と悪化超のまま推移するものとみている。卸売業では28.6ポイント低下し、D Iでは△85.7まで悪化する見込み。建設業では14.3ポイントの低下となり、D Iでは△71.4まで悪化するものとみている。製造業では40.0ポイントと大幅に低下し、D Iでも△80.0まで悪化するものとみている。

〔資金繰り〕

全産業で見ると、今期と比較して14.2ポイント低下し、D Iでは△57.1とマイナス幅が拡大する見通し。

業種別にみると、小売業では14.3ポイント上昇するものの、D Iでは△57.1にとどまる見通し。サービス業では変化ないものの、D Iでは△66.7と悪化超で推移するものとみている。建設業では14.3ポイント低下し、D Iでは△42.9まで悪化するものとみている。製造業では40.0ポイントと大幅に低下するものの、D Iでは△40.0となる見込み。卸売業では28.5ポイント低下し、D Iでは△71.4まで悪化するものとみている。

●設備投資

設備投資の実施状況を見ると、今期は31.4%の実績となり、前期(18.9%)と比較するとかなり活発化している。前年同期(元年4~6月期:14.6%)と比較しても活発化したものとなっている。業種別で見ると、製造業や建設業で活発化している。来期については全体で20.0%と今期と比較するとやや沈静化するものとみている。

●経営上の問題点

建設業では前期と変化なく、「民間需要の停滞」が1位、「従業員の確保難」「官公需要の停滞」が2位、「材料価格の上昇」が3位となっている。製造業では前期の1位と2位に変化なく、1位「需要の停滞」、と2位「原材料価格の上昇」となり、3位は新たに「原材料費・人件費以外の経費の増加」と「従業員の確保難」となっている。卸売業では、前期1位と変化ないものの、2位には「その他(新型コロナウイルスの影響)」他が2位に入っている。小売業では、「その他(新型コロナウイルスの影響)」が1位となり、2位には前期と同様に「消費者ニーズの変化への対応」となっており、3位には前期1位の「購買力の他地域への流出」がはいっている。サービス業では、引き続き「需要の停滞」が1位となり、2位には新たに「その他(新型コロナウイルスの影響)」が入っている。3位は「大企業の進出による競争の激化」となっている。

業 種 別 D I 値 表 令 和 2 年 4 月 ~ 6 月 期

	回答企業数	業 況			売 上			採 算			資 金 繰 り			採算(今期経常利益)
		①	②	③	①	②	③	①	②	③	①	②	③	
全産業	35	△37.8	△65.7	△77.1	△27.0	△65.7	△80.0	△37.8	△62.9	△74.3	△27.8	△45.7	△57.1	△45.7
建設業	7	△28.6	△42.9	△71.4	△14.3	△71.4	△85.7	△28.6	△57.1	△71.4	△14.3	△28.6	△42.9	△28.6
製造業	5	△60.0	△60.0	△100.0	△20.0	△60.0	△100.0	△40.0	△40.0	△80.0	△20.0	00.0	△40.0	△40.0
卸売業	7	△37.5	△71.4	△85.7	△12.5	△42.9	△85.7	△37.5	△57.1	△85.7	△14.3	△42.9	△71.4	28.6
小売業	7	△50.0	△85.7	△85.7	△66.7	△71.4	△85.7	△66.7	△85.7	△85.7	△66.7	△71.4	△57.1	71.4
サービス業	9	△27.3	△66.7	△55.6	△27.3	△77.8	△55.6	△27.3	△66.7	△55.6	△27.3	△66.7	△66.7	△55.6

① 前年同期(平成31年1月～3月)と比較した前期(令和2年1月～3月)の状況

② 前年同期(令和元年4月～6月)と比較した今期(令和2年4月～6月)の状況

③ 前年同期(令和元年7月～9月)と比較した来期(令和2年7月～9月)の見通し

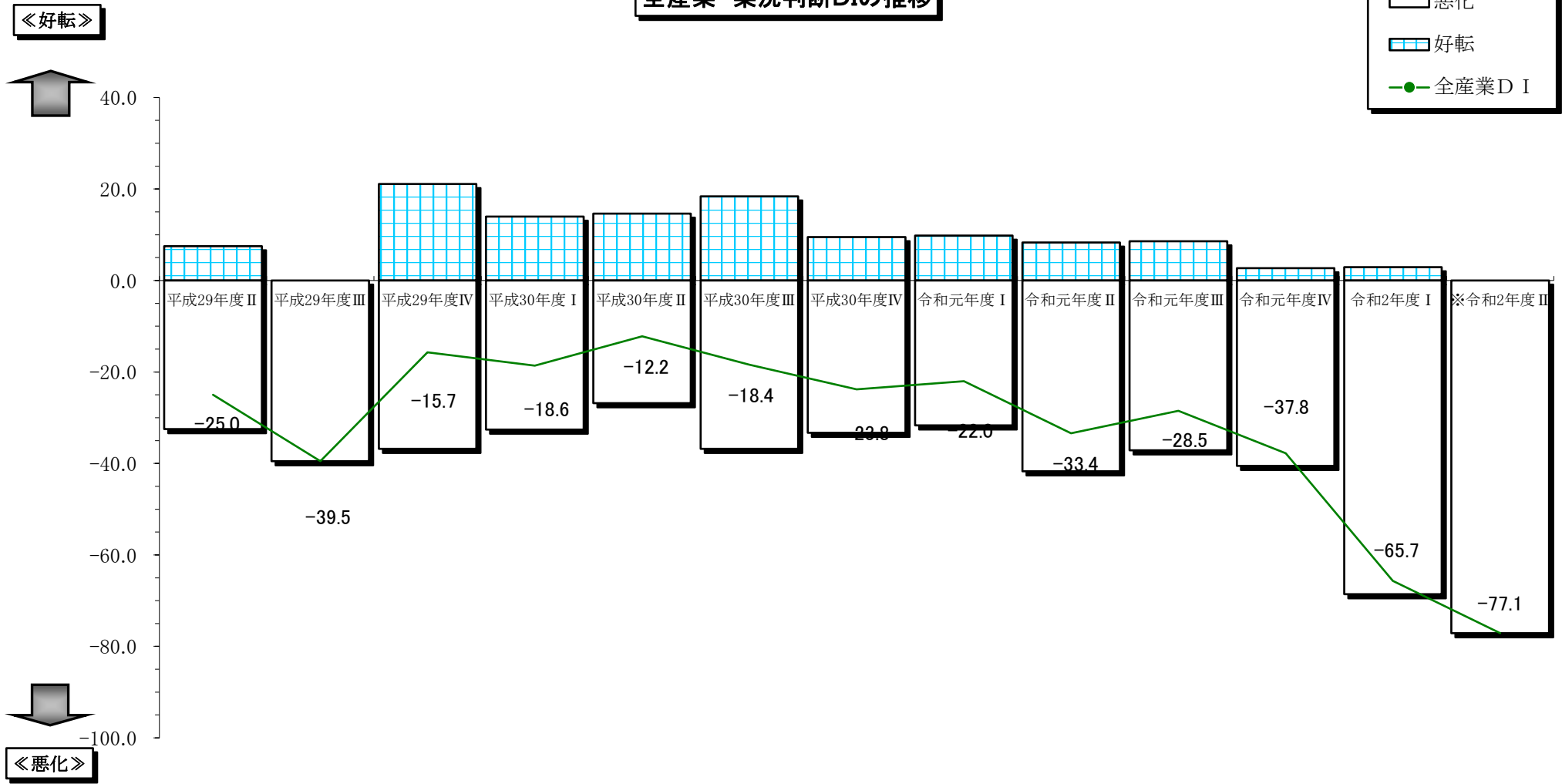
直 面 し て い る 経 営 上 の 問 題 点

産 業	1 位	2 位	3 位
建設業	民間需要の停滞	従業員の確保難／官公需要の停滞	材料価格の上昇
製造業	需要の停滞	原材料価格の上昇	原材料費・人件費以外の経費の増加／従業員の確保難
卸売業	需要の停滞	メーカーの進出による競争激化／新規参入業者の増加／商品在庫の過剰／従業員の確保難／その他(新型コロナウイルスの影響)	大企業の進出による競争の激化／金利負担の増加
小売業	その他(新型コロナウイルスの影響)	消費者ニーズの変化への対応／需要の停滞	購買力の他地域への流出
サービス業	需要の停滞	その他(新型コロナウイルスの影響)	大企業の進出による競争の激化

設備投資を今期実施した 31.4 %

設備投資を来期計画している 20.0 %

全産業 業況判断DIの推移



【業況判断DI】

〈好転〉、〈不変〉、〈悪化〉の選択肢のうち、〈好転〉と答えた企業の割合から〈悪化〉と答えた企業の割合を差し引いた値。

I…4月～6月期、II…7月～9月期、III…10月～12月期、IV…1月～3月期

※前年度同期（平成31年4月～6月）と比較した来期(令和2年4月～6月)の見通し